

木崎中だより	7号	平成29年11月1日(水) さいたま市立木崎中学校 048(886)4302
--------	----	--

## 「少しの気配り」から「思いやり」・「こころづかい」へ

校長 大谷 慎也

目に映る晩秋の光景に木枯らし一号が吹き、いよいよ立冬を迎える頃となりました。先月行われました「さいたま市中学校新人体育大会」および「さいたま市中学校駅伝競走大会」におきましては、保護者の皆様、地域の皆様の温かい御声援をいただき、誠にありがとうございました。校内では、新しく生徒会を担う本部役員の認証式や小学校6年生を対象とする中学校進学に向けたガイダンスである「つぼみの日」が実施され、少しずつ次代への継承が進んでいます。

さて、10月29日(日)に「さいたま市立木崎中学校創立70周年記念式典」ならびに「合唱コンクール」が行われました。台風22号の接近する荒天の中、会場のさいたま市文化センターへ、さいたま市長様、さいたま市教育委員会教育長様、浦和区長様、歴代の校長先生方をはじめ、多くの御来賓や保護者・地域の皆様にお越しいただき、盛大に開催することができました。心より感謝申し上げます。

我が木崎中学校の前身は、昭和22年4月1日、「埼玉県立浦和中学校」(現在の「埼玉県立浦和高等学校」)の校地内に設置された「浦和市立木崎中学校」です。その年の5月2日に第1回入学式が挙行されました。それ以来、20世紀から21世紀へ移り変わる激動の年月を経る中、市当局を始め、歴代のPTAの皆様、地域の皆様の多大なる御指導と御支援を賜り、23,315名の卒業生を世に輩出し、今日に至っています。

昨今の教育においては、少子高齢化やグローバル化等による急速な社会の変化に伴い、困難を乗り越え、主体的に未来を切り拓き、生き抜いていく力を子どもたちにはぐくむことが求められています。本校では、学校教育目標に「よく考えて行動する生徒 思いやりのある生徒 はつらつとした生徒」を据え、「一人ひとりの生徒が誇りをもち、保護者・地域住民に信頼され、明るく活気に満ちた学校」を目指し、日々の教育活動を展開しています。私事ではありますが、本校に着任して以来、生徒・職員へ「さわやかなあいさつ」、「少しの気配り」、「響く校歌」の三つをお願い事として取り組んでいます。「さわやかなあいさつ」については、御来校者や地域の方々から少しずつお褒めの言葉を頂戴するようになってきました。何気ない行為である「少しの気配り」については、学校教育目標にある「思いやりのある生徒」の育成に欠かすことのできない行為と考えています。平成22年(2010年)頃、公益社団法人ACジャパンの広告で、さいたま市をはじめ300校以上の学校の校歌の作詞を手掛け、旧大宮市教育委員会教育委員を務められた 詩人 宮澤 章二 氏の『行為の意味 青春前期のきみたちに』という作品が使用されました。その詩の中に「確かに<こころ>はだれにも見えない けれど<こころづかい>は見えるのだ それは 人に対する積極的な行為だから」「同じように胸の中の<思い>は見えない けれど<思いやり>は見える それも人に対する積極的な行為だから」という言葉があります。授業中、クラスメートが落とし消しゴムを拾う。休み時間、元気がないクラスメートに声をかける。雨の日にとすれ違う際に傘を少し傾げる。バスの車中でお年寄りの方や幼児に席を譲る……。温かい「心や思い」が、温かい「行為」につながったら、どれだけ意義深いことでしょうか。温かい気持ちや優しい気持ちが行動によって現されたら、人としてどんなに美しいことでしょうか。いつの時代においても「少しの気配り」は、自分自身を幸せにする行為であると考えます。

日増しに寒さが加わり、日没時刻が早くなってまいりました。保護者の皆様、地域の皆様のお声掛けや見守りにより、一人ひとりの生徒が安全な生活を過ごせています。今後とも、御支援と御協力をお願い申し上げます。